

C-73 オムツカバー設計のための身体計測 —動作による変化—
東北女大家政 ○奥野右子 弘前大医 河西達夫

目的 赤ん坊にとって着心地の良い オムツカバーを設計するためには、まず第一に身体計測が必要であるが、ある計測値における計測値が日常の動作によってどのように変化するかを知ることが重要である。今回は、仰臥時測定値を基に、この値が立位、座位、ハイハイの状態でのどのように変化するかを求めた。

方法 資料は1976年5、7月に弘前地区で測定した、2~18か月・男女、218名の測定値である。測定項目は、長径3項目、周径7項目、開脚度(座位における)及び体重で、これら長径、周径を、被験者の発育状況に依りて、仰臥、立位、座位、ハイハイの状態の動作時に測定した。測定は、身長を除く、長径、周径いずれも身体表面の明瞭な箇所(例えば、臍、鼠径溝等)を基点とし、体表に沿って布製メジャーで測定した。

結果 各項目とも、動作によって測定値にかなりの変化がみられたが、胸囲、臍囲、腰囲ではいずれも、座位、ハイハイの状態、立位、仰臥の順で測定値が大となっている。仰臥と座位の値の差は、平均値で胸囲2.4 cm、臍囲4.2 cm、腰囲4.9 cmである。